

脩身說約

水戸麟編輯

四

K110.1

53

4

修身說約卷ノ四

木戸 麟 編纂

第一

神武天皇既中洲ヲ平ゲ、大和ノ畝傍ノ橿原ノ宮
テ天位ニ即キタマヒシヨリ四年、詔スラク、
吾ガ皇祖ノ靈、天ヨリ照臨シテ、朕ガ躬ヲ光助シ
タマヘルニヨリ、諸虜僉平ギ、天下無事ナリ、朕ハ
天神ノ子ナレバ、今天、神ヲ祀リテ、大孝ヲ申ブ可
シトテ、靈時ヲ鳥見山ニ立テタマヘリ、

第二

和氣清麻呂ハ、稱徳天皇ノ御世ノ人ナリ、天皇僧
 道鏡ヲ寵スルヲ以、太宰主神中臣習宜阿曾麻呂、
 道鏡ヲシテ皇位ニ即カシメバ、天下必太平ナラ
 ムト、八幡太神託宣セリト矯奏ス、天皇清麻呂ニ
 詔シテ曰ハク、汝筑紫ニ往キ、神勅ヲ受ク可シト、
 道鏡モ亦曰ハク、神意我ヲノ皇位ニ即カシメン
 トス、汝宇佐ニ往キ、神勅ヲ受ケ、吾ガ望ミノ如ク
 セバ汝ヲ以太政大臣ト爲サン、若吾ガ意ニ違ハ
 ヲ、嚴科ニ處スベシト、清麻呂反命シテ曰ハク吾
 ガ國開闢以來、君臣ノ分定レリ、臣ハ以君ト爲ル

可ラス、天日嗣ギ
 ハ必皇胤ナラザ
 ル可カラズ無道
 ノ人ハ早ク之ヲ
 除クベシト神勅
 アリシト奏シケ
 レバ、道鏡大ニ怒
 リ、其ノ官ヲ奪ヒ
 テ之ヲ大隅ニ流
 セリ、翌年光仁天



皇位ニ即キ、道鏡ヲ貶シテ下野ノ國ノ藥師寺ヲ造ル別當トシ、阿曾麻呂ヲ多禰島ノ島守トシ、清麻呂ヲ召レテ本位ヲ授ケタマヘリ、後卒スルニ及ビテ正三位ヲ贈ラレタリ、西京高尾山ニ在ス護王明神是ナリ

第三

中江氏姓ハ藤諱ハ原字ハ惟命、與右衛門ト稱ス、江州高島郡小川ノ人ナリ、母ニ事ヘテ孝ナリ、少ヨリ書ヲ讀ミテ、頗發明スルトコロアリ、其ノ學王伯安ヲ宗トス、本朝諸州ノ王學、惟命實ニ之ヲ

倡ヘリ、嘗加藤某侯ニ豫州大洲ノ城ニ仕ヘ、母ヲ迎ヘテ養ハントス、母ノ曰ハク、我聞ク、婦人ハ疆ヲ越エズト、願ハクハ之ヲ守ラント、惟命之ニ逆ハズ、職ヲ還シテ郷里ニ



歸ラント請フ、加藤氏其ノオヲ愛ミテ許サズ、惟
命勃然トメ曰ハク、我不孝トリト雖、豈一日モ祿
ノ爲ニ縻ガレテ、以定省ヲ曠フスルニ忍ンヤト、
乃一書ヲ留メテ、具サニ母ト索居ス可ラザルノ
意ヲ述ベ、潛ニ遯レテ郷里ニ歸隱セリ、時ニ年ニ
十又八、寛永某ノ年月ナリ、

第四

應神天皇特ニ菟道稚郎子ヲ愛シ、立テ、皇太子
トセント欲シ、大山守命、大鷦鷯尊ヲ名シテ問ヒ
テ曰ハク、汝等子ヲ愛スルヤ、對ヘテ曰ハク、甚之

ヲ愛ス、又曰ハク、長ト少ト孰カ勝レル、大山守命
對ヘテ曰ハク、長子ニ如カズト、天皇色悦バズ、大
鷦鷯尊、天皇ノ心ヲ測リ、對ヘテ曰ハク、長スル者
ハ多ク寒暑ヲ經テ入ト成レリ、故一憂フル所ナ
レ、少ナル者ハ、未其ノ成不ヲ知ラズ、是ヲ以甚之
ヲ憐ムト、天皇大ニ悦ビテ曰ハク、汝ノ言朕ガ心
ニ合ヘリ、天皇四十年春、皇子稚郎子ヲ立テ、皇
太子トス、紀元九百七十年、天皇崩ズ、皇太子、避ケ
テ菟道ニ之キ、位ヲ大鷦鷯尊ニ讓リテ曰ハク、宗
廟社稷ノ大事、豈我不佞ノ當ル所ナランヤ、且昆

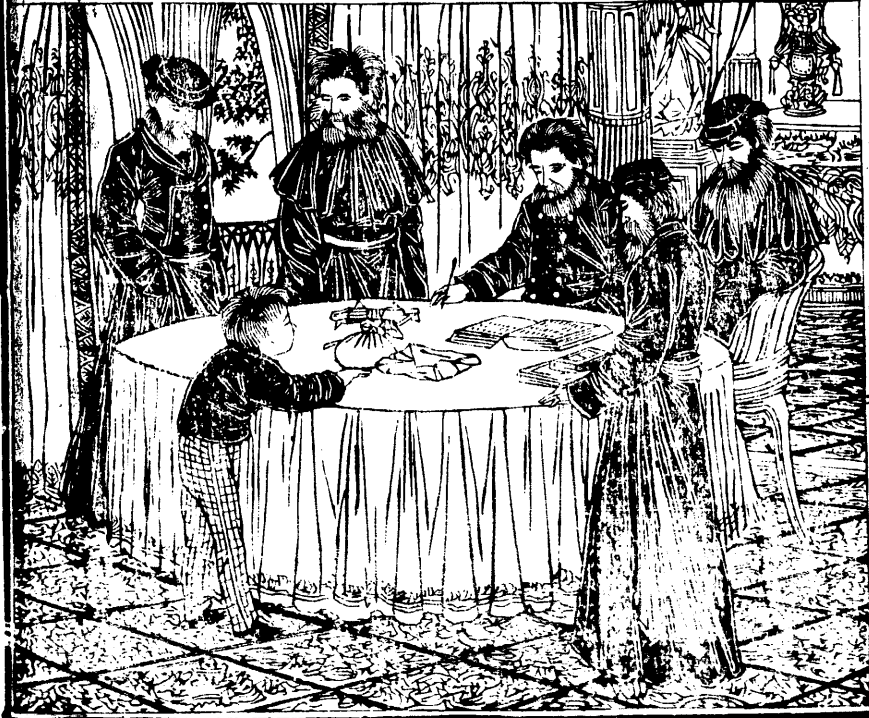
ハ上ニノ、季ハ下、聖ハ君ニノ、愚ハ臣ナリ。古今ノ常典ナリ、願ハクハ兄王疑フト勿レト、大鷦鷯尊モ亦避ケテ難波ニ往キテ曰ハク、我不敏ナリト雖、豈先帝ノ命ヲ棄テ、弟王ノ志ニ從ハンヤト相讓リテ位ヲ空クスルト三年ニ垂ントス、民ノ貢獻スル者、適歸スル所ヲ知ラズ、大鷦鷯尊心ヲ執ルト益確シ、皇太子其ノ奪フ可カラザルヲ知リ、遂慨然トシテ自殺シ玉フ、大鷦鷯尊驚キ馳セテ、菟道ニ至リ、慟哭シテ、之ヲ菟道山ニ葬レリ、紀元九百七十三年、大鷦鷯尊天位ニ即キ攝津ノ

難波ニ都シ、高津宮ト號ス、是ヲ仁徳天皇トス、

第五

合衆國ノ一都ニ火アリ時、嚴冬ニ際シ、風勢激烈ニシテ、多クノ家屋ヲ燒亡シ、人民多クハ近村ノ親戚或ハ知音ニ依頼シテ、身ヲ投ゼシカドモ、貧人ノ如キハ、身體依ル所莫ク、雨露蔽フ所ナク、凍餒ノ患ヒニ迫レリ、僧徒等之ヲ憐ミ、新聞紙ヲ以テ其ノ情態ヲ廣告シ、金穀ヲ募リテ、之ヲ賑恤セリ、爰ニ一童兒アリ、錢六「セント、古衣一領、及ヒ林檎ヲ攜ヘ來リテ曰ハク、我モ亦之ヲ以、賑恤ノ舉ニ

應ゼント欲スレ
ドモ人僉其ノ少
キヲ笑ヘリ、但願
ハクハ之ヲ咎メ
ズシテ、採納セラ
ルヲ得バ、何ノ
幸カ之ニ如シヤ
ト、僧大ニ之ヲ稱
贊シテ、慈愛ノ心
深クシテ、其ノ分



ニ適タル物ヲ贈ル、是則最善ノ贈物ナリ、何ゾ物
品ノ多少ニアランヤト言ヘリトゾ、

第六

寛永ノ初メ、雲州ノ松江ニ、一人アリ、伊達治左衛
門ト稱ス、國主堀尾氏ニ仕ス、二親堂ニ在リ、出告、
反面、定省、温清、闕クルヲナシ、飲饌美味ニ非ザレ
バ、父母樂マズ、伊達氏、薄俸ナリト雖、常ニ鮮醲ア
ラザルヲ莫シ、朝夕孜々トノ躬親、刀俎ヲ執レリ、
奴婢ハ己ガ至誠ニ如カザルヲ以ナリ、其ノ割烹
ノ時ニ臨ミテ、父母ニ請ヒテ曰ハク、今日幸ニ某

ノ魚ヲ得タリ、調理ノ方尊意ニ隨ハント父ノ曰ハク、鱠ト爲ヨ、母ノ曰ハク、羹ニ作レ、命ズル所常ニ殊ナリ、伊達氏其ノ命ノ如クニ之ヲ進ム、父母或ハ己ガ室ニ來ラシ



トスル寸ハ、則先ヅ美味ヲ設ケ、厚蓐ヲ布キ、然後堂ニ分リテ請ヒテ曰ハク、慈親願ハクハ吾ガ壯健ヲ試ミヨト、之ヲ負ヒテ堂ヲ下ル、其ノ色容愉婉ナラザルト无ク、其ノ聲氣和柔ナラザルト莫シ、父母之ヲ視ルト猶嬰孺ノ如ク、之ヲ使フト婢妾ノ若シ、遂父母ヲメ身ヲ終ルマデ、足ラザルト莫ラシメリ、堀尾氏之ヲ嘉シ、數珍餌ヲ賜ヒテ、以ニ親ニ進メシメケリ、士民皆言フ、國中孝子无キニ非ズ、唯伊達氏ノ如キハ莫シト、

第七

孫泰ハ山陽那ノ人ナリ、姨某二人ノ女アリ、病
 テ方死ナントスルトキ、孫泰ニ曰ヒケルハ、姊ハ
 一目ヲ眇スレバ、汝カ妻ト爲シ難シ、妹ヲ以妻ト
 セヨト、姨既死シテ、孫泰姊女ヲ娶レリ、人其ノ故
 ヲ問フ、孫泰答ヘテ妹ハ容美ナレバ、誰カ之ヲ娶
 ラザラン、姊ハ眇人ナレバ、我ニ非ズレテ誰カ之
 ヲ娶ランヤト云ヘリ、嘗市ニ出テ古キ鐵ノ燈臺
 ヲ購求セリ、歸リテ之ヲ磨キシニ、銀ナリケレバ、
 孫泰之ヲ賈人ニ返セリ、又義興ニ於キテ、錢貳百
 貫ヲ以、一邸ヲ買ヒ、移リテ之ニ住セントセシト

キ、其ノ家ノ老嫗
 泣キ哀ムト甚シ
 孫泰怪ミテ是ヲ
 問フ、老嫗云ハク、
 我姑ニ事ヘテ、久
 ク此ノ家ニアリ
 シニ、子孫愚ニソ
 家ヲ保ツコト能
 ハズ、豈哀シカラ
 ズヤト、孫泰大ニ



之ヲ愍ミテ曰ハク今我俄ニ京師ヨリ召サレテ、
官ニ就カントス、此ノ家ニ住スルヲ能ハズ、因リ
テ之ヲ汝ガ子ニ托シテ、守ラシメント、遂義興ヲ
去リテ、再之ヲ訪ハザリシトゾ、孫泰詞ヲ設ケテ、
直ニ之ヲ老嫗ニ與ヘザリシハ、老嫗ガ貳百貫ノ
錢ニ心ヲ惱サンコトヲ恐レテナリ、此ノ人齡九十
ニ及ビ其ノ子高官ニ上レリト云フ、
善人ハ私心ナシ、故ニ我ヲ忘レテ人ノ爲ニス
ルヲ快シトス、惡人ハ私慾ノ爲ニ心ヲ動スガ
故ニ、人ノ爲ニスルコトヲ好マズ、其ノ心何ゾ

快キコトアラシヤ、孫泰美女ヲ娶ラズシテ醜
女ヲ娶リ、銀篋ノ燈臺ヲ賈人ニ返ス、是皆私慾
ヲ忘レテ、人ノ爲メニスルモノナリ、其ノ心中
ノ愉快何如ゾヤ、惡人ハ生涯唯利慾ノ私ノミ
ナレバ、心中快キコトナシ、偶快事アリト雖、真
ニ愉快ナルニアラズ、譬ヘバ、小瘡ヲ病ム者、其
ノ痒ヲ搔キテ、快キガ如シ、病マザル者ノ快且
愉ナルニ如カザルナリ、

第八

聯邦ノ一都、レノシニ、貧家アリ、其ノ女蒸餅ヲ盜

捕吏ニ拉ハレテ、街上ヲ歩シケレバ、衆人群集
 シテ之ヲ觀望セリ、時ニ學校ヨリ歸ル少女アリ、
 ロトスト云フ、大ニ之ヲ憫ミ、何故ニ蒸餅ヲ盜ミ
 レマト問ヒケルニ、我ニ兩親ト兄弟アリ、貧ニシ
 將飢渴セントス、故ニ此ニ及ズ、實ニ慚悔ニ堪ハ
 スト答フ捕吏ノ之ヲ導クコト急ナレバ、少女ハ
 僅ニ其ノ姓名ト住所トヲ聞キ、之ヲ救フノ策ヲ
 慮リシカドモ、母ハ他ニ出テ、在ラザシバ、金錢
 ヲ得ベキ手段モナク、思ヒ窮リテ、智生ニ一奇計
 ヲ求メ出ダセリ、此ノ邊ニ髮ヲ結ヒテ生計ヲ營

ム者アリ、常ニ「ロ
 ース」ノ髮ノ美麗
 ナルヲ稱譽シケ
 ルガ、一日戯レテ、
 君ノ髮ヲ剪リテ
 與ヘナバ、五「ドル
 ラル」ヲ以謝スベ
 シト云ヒシ「ア
 リケレバ、ロース
 ハ直ニ其ノ家ニ



修身読本
 卷之十
 貧乏

至リ約セシ如ク髮ヲ剪リテ價ヲ賜ハランコト
ヲ乞ヘリ、而此ノ結髮師モ亦天性善良ナル者ナ
レハ、其ノ情實ヲ聞キ、大ニ感歎シ、三「ドル」ヲ
與ヘテ云ハク、髮ハ他日ニ剪ラント、「ロース」大ニ
喜ビ、食物ト錢トヲ攜ヘテ、貧家ニ行キ、之ヲ與ヘ
テ慰撫セリ、既メ「ロース」ノ母、之ヲ聞キ、大ニ悦ビ、
「ロース」ガ家ニ歸ルニ及ビテ、其ノ手ヲ把リテ之
ヲ稱贊セリトゾ、

第九

甚介ハ、備中ノ國、淺口郡、柴木村ノ農ニシテ、母ニ

事ヘテ孝ナリ、兄アレドモ、母之ト居ルヲ欲セ
ズ、恒ニ甚介ガ舎ニ在リ、甚介、孝養至ラザルトコ
ロナク、朝饗夕飧、母未食セザレバ、己モ亦食セズ、
母食シテ後、欣然トノ、始メテ匕箸ヲ下スヲ以常
トセリ、母將坐セントスルキハ、則自席ヲ展ベ、冬
ハ之ヲ温ニシ、夏ハ之ヲ清クス、母寢テ未熟眠
セザレバ、己モ亦眠ラズ、痛癢アレバ、之ヲ抑搔ス、
平旦ニハ、必自茗ヲ煮、席ヲ布キテ、以母ノ起キ出
ヅルヲ待テリ、舎内布ク所皆藁席、唯一蘭席アリ
テ、母之ニ坐シ甚介其ノ前ニ在リテ、進退周旋、起

居、食息唯母ノ使
 令スル所ノマ、
 ニス、事有リテ府
 ニ之キ、市ニ入ル
 トキハ、則必魚菓
 甘旨ノ物ヲ買ヒ
 求メテ、之ヲ進ム
 母年八十、顔容仍
 衰ヘズ、人其ノ故
 ヲ問ヘ、曰ハク



甚介我ヲ養フ、吾ガ意ハ如クナラザルコトナレ彼
 ノ公侯ノ母夫人ト雖、亦恐ラクハ吾ガ樂ミニ如
 カシ、衰朽セザル所以ナリト初メ父死スル時、田
 園ヲ甚介兄弟ニ分付ス、後兄將其ノ産ヲ破ラン
 トス、乃詞ヲ設ケテ甚介ニ曰ヒケルハ吾ガ田ハ
 瘠薄ニシテ汝ガ田ハ肥饒、故ニ此クノ如ク、請フ且
 之ヲ易ヘテ佃セント、甚介謹ミテ之ヲ諾シ、其ノ
 請フ所ノ如クセリ、然レモ收穫ノ時ニ至レハ則
 甚介ガ粟反リテ兄ヨリ多シ、兄嘗租ヲ欠キテ、吏
 ノ爲メニ囚ヘラレ、錢穀ヲ借リテ、以自救ハント

修身記
 卷之三
 三
 金巻

スレドモ人貸ス者アルナレ甚介之ヲ憂ヘ先ツ
盡己カ蓄フ所ヲ出ダノ之ヲ償ヒ足ラザル所ヲ
人ニ借ラント乞フ人皆喜ビテ之ニ應ゼリ是ニ
因リテ兄頓ニ刑ヲ免ル、一ヲ得ク承應中國
主池田氏名ノ城府ニ詣ラシメ之ヲ寢メテ曰ハ
ク汝ガ孝悌國中有ルヲ希ナリ以父兄ニ事フル
者ノ龜鑑トナスヘシト因リテ其ノ所有スレ田
園ノ租稅ハ子孫ニ至ルマデ輸賦スレ勿ラシ
メタリ諸士甚介ニ問フテ曰ハク汝ガ孝悌何ニ
因リテ此ニ至ルヤ甚介曰ハク我孝悌ナルモノ

ヲ知ラス唯母食ヲ甘ゼザレバ我モ亦食ヲ欲セ
ス母寢ニ安ンゼザレバ我モ亦眠ルヲ能ハザル
ノミ又問ヒテ曰ハク汝ヲ以弟ト爲シ而兄ハ胡
爲レゾ夫善カラザルヤ甚介曰ハク未必シモ善
カラザルニハアラズ彼多病ニノ事ニ懈ル故ニ
郷人ノ爲ニ好セラレズト

第十

張孝基ハ許昌支那ノ士人ナリ同里ノ富豪某氏ノ
婿トナレリ某氏一男子アリ無賴ノ少年タリ某
氏病ミテ死セントスルトキ財ヲ舉ゲテ孝基ニ

與へ、其ノ子ヲ追
 へリ、數年ヲ經テ、
 一日、一男子ノ顔
 色憔悴シテ、百結
 ノ縵縷ヲ穿テ、食
 ヲ街上ニ乞フ者
 アリ、孝基之ヲ觀
 ルニ、其ノ男子ナ
 リケレバ、大ニ之
 ヲ愍ミ、名シテ曰



ハク汝能ク吾ガ爲ニ毎日田園ニ水ヲ灌グヤ、其
 ノ人曰ハク、苟飢渴セザルヲ得バ、何事カ爲サ
 ラント、日々之ヲ勤メテ怠ラズ、數日ヲ經テ、孝基
 又曰ハク、汝ニ倉庫ヲ守ラシメン、能ク之ヲ守ル
 ヤ、男子又之ヲ勤メテ怠ラズ、孝基其ノ心ノ改リ
 テ、財産ヲ相續セシムルニ足ルヲ確知シ、己ガ
 與ヘラレタル財産ヲ舉ゲテ、之ヲ返シ與ヘケレ
 バ、其ノ男子モ亦謹慎勉勵シテ、遂善人トナレリ
 トゾ、

放蕩ノ子弟ガ、家産ヲ蕩盡センヲ恐レ、之ヲ

追ヒテ、財産ヲ近親ニ譲ル者、往々之有リ、是其ノ心、豈其ノ子弟ガ心ヲ改メテ善良トアルトキハ、其ノ財産ヲ返シ與ヘンコトヲ願ハサルモノアラシヤ、然ルヲ、輕薄貪慾ノ人ハ、之ヲ幸ニシ、其ノ子弟善良ノ人トナレルモ、其ノ財産ヲ私シ、覩トシテ省ザルモノ、莫キニ非ズ、張孝基ノ行ヲ見テ恥ザル可ケンヤ、

第十一

佛國ニ一ノ工人アリ、人ト爲リ、善良ニシテ、味爽ヨリ孳々トシテ其ノ業ヲ營ムガ故ニ、其ノ鈍鋸

ノ響キト、清明ナル謠曲ノ聲、常ニ四隣一聞エリ、工人嘗或人ニ古キ木箱ヲ修繕センコトヲ託セラレタレバ、一日、其ノ板ヲ放チ、其ノ釘ヲ抜クニ當リ、棚板ノ後ニ、秘藏セル古紙アリ、即爲替證券ニシテ、之ト共ニ密封セル金アリ、之ヲ算フルニ、證券ノ金員ト、合セテ三萬フランクアリ、工人ハ、未曾斯ノ如キ多數ノ財貨ヲ見ザレバ、大ニ驚愕シテ、其ノ婦ニ示スニ、婦ノ云ハ久人ノ遺失スル所ニシテ、子之ヲ拾ヘリ、皆子ガ有ナリ、工人曰ハク、然ラズ、吾ガ業ヲ勉メテ得ル所ニアラザレバ、吾

有トナス可カラズ、吾が有トナス可カラザル
 者ヲ有スルハ、盜ト何ゾ異ン、我ハ吾ガ兩腕ノ事
 ニ堪フルノ氣カアリ、既此ニツノ者ヲ有ス、生ヲ
 送ルヲ易キノミ、我其ノ遺失セル人ニ返シ與ヘ
 ント、婦ノ云ハク、子が言理アリ、其ノ道ニ非ズレ
 テ得ル所ノ財寶ハ、是禍ノ本ナリ、之ヲ貯フルハ
 何ゾ禍ヲ貯フルニ異ランヤト、工人ハ其ノ金ト
 證券トヲ囊中ニ納レ、嚮ノ木箱ノ主人ノ家ヲ尋
 子得タリシガ嚮ニ木箱ヲ攜ヘ來リシ人ヲ見ズ
 シテ、二人ノ少女ニ逢ヘリ、工人其ノ景況ヲ察ス

ルニ、貧窶言フ可
 カラズ一人ハ病
 ミテ床上ニ臥シ、
 一人ハ勉メテ裁
 縫セリ、工人ハ未
 驟ニ己ノ要事ヲ
 話セズ、唯營業ハ
 艱難ニシ、殊ニ工
 人ノ勞苦スルヲ
 ト、光陰ノ貴重セ



ザル可カラザルコトヲ談ジタリシガ、季女ノ曰ハク、人間營業ノ難キヲ、眞ニ子が言ノ如シ、殊ニ我等が如キハ、姊ハ病床ニ困臥シ、吾ガ一本ノ針ヲ以、二人ノ生活ヲ計ルナレバ、飢渴ノ患ヒ且タニ迫レリ、吾ガ父在世ノ時常ニ我等ニ語リテ云ハク、我死ストモ、汝等足ラザルコトナカルベシト、然ルニ父没スルノ后ハ、斯貧窶ニ苦ミテ、一モ所有物ナシト、工人云ハク、君ガ輩何故ニ此クノ如キノ貧窶ニ陷レルヤ、季女答ヘテ曰ハク、吾ガ父在世ノ時ハ、富饒ニシテ、若干ノ金ヲ貯藏セシガ、其

ノ金ハ或ル工人ニ託セシ、木箱ニ納メ置キタリトゾ、今若之ヲ存セバ、我等姊妹ハ衣服ヨリ嗜好ノ物ニ至ルマデ、闕クルコトナカラシニ、父不意ニ死シタレバ、之ヲ尋ヌル由ナシ、故ニ貧窶ニ至レリト、工人大ニ喜ビテ曰ハク、少女ヨ、其ノ金ハ茲ニアリ、我之ヲ還サント、其ノ數ヲ算ヘテ與ヘケルトゾ、

第十一

關蔽ハ、汝南平興ノ人ナリ、汝南ノ太守第五常ニ仕ス、第五常名サレテ京ニ往ク、錢壹百三十拾萬

ヲ闕敝ニ託セリ、闕敝之ヲ遞ラント欲スレドモ、
 時兵亂ニ際シテ、道路通セズ、既ノ闕敝貧窶ヲ極
 メ、殆飢餓ニ迫レリ、其ノ妻闕敝ニ曰ヒケルハ、第
 五常氏ノ託セル錢ヲ出ダシテ、之ヲ補ヒ、金ヲ得
 ルキ、之ヲ償ハント、闕敝曰ハク、不可ナリ、手ヲ繼
 ル可カラズ、道路ノ通ズルヲ待チテ、之ヲ遞ラシ
 ト、之ヲ土中ニ埋メケリ、既メ、疫癘第五常ガ家ニ
 蔓延シテ、一家悉死シ、惟九歳ナル孫兒ヲ遺セリ、
 第五常方死セントスルトキ、之ニ曰ヒケルハ、我
 在昔汝南ヲ出テシ時、闕敝錢三拾萬ヲ託シ、

ケリト、其ノ孫成
 人ノ后、落魄シテ、
 汝南ニ往キケレ
 バ、闕敝大ニ喜ビ
 テ、百般之ヲ饗シ、
 錢ヲ掘リ出ダシ
 テ、悉之ヲ與ヘリ、
 其ノ人曰ハク、吾
 ガ祖父ノ三拾萬
 錢ト言ヘリ、故ニ



其身言終 卷四 金法堂
其ノ他ヲ受ケジト、闕敝曰ハク、是第五常氏病ノ
爲ニ、精神ヲ擾サル、ノミ、實ニ壹百三拾萬錢ナ
リトテ、肯ハザリシトゾ、

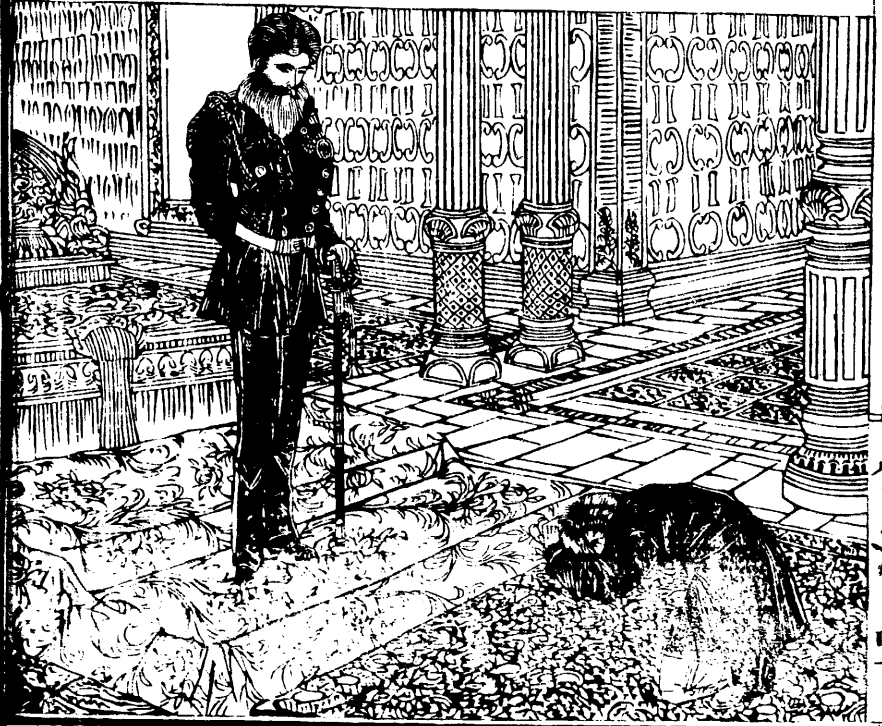
人誰カ義ヲ重ンゼザランヤ、然レモ、飢寒ニ薄
レバ、其ノ心ヲ動サザル者ハ稀ナリ、闕敝ガ妻
ノ急ヲ救ハントセシガ如キハ、俗人ノ情、僉然
ラザルコト無シ而第五常ガ、三拾萬ト遺言セシ
ハ、其ノ餘ハ以闕敝ニ與ヘント欲セシナラン
カ、孫ノ辭シテ悉之ヲ受ケズト言ヒシモ、亦理
アルヲ、闕敝壹錢ヲモ受ケザリシハ、眞ニ廉潔

ノ士ト言ハザル可ンヤ、

第十三

「プロイス」ノ哲王「フレデリツキ」第一世、一日、頻ニ
呼鐘ヲ鳴ラシテ、扈從ヲ名セドモ應ゼズ、王異ミ
テ其ノ室ニ至ルニ、扈從ハ坐睡シテ、其ノ懷ヨリ
書簡ノ方落チントシテアリケレバ、把リテ之ヲ
讀ムニ、其ノ母ノ手跡ニテ、俸給若干金ヲ割キテ、
贈リタルヲ喜ビ謝シテ、汝ノ如キ孝心深キ者ハ、
天ヨリ幸福ヲ賜フベシ、我日々之ヲ祈ルト書セ
リ、王大ニ母子ノ孝慈ヲ感ジ、密ニ書簡ニ添フル

ニ、金貨壹百圓ヲ
 以シテ、其ノ懷ニ
 返シ入レ室ニ入
 リテ劇ク呼鐘ヲ
 鳴ラセリ、扈從大
 ニ驚キ、王ノ前ニ
 跪キテ、其ノ怠慢
 ヲ謝セシトキ、懷
 中ノ重クシテ、大
 金ノ在ルヲ見、大



ニ驚キ、周章シテ爲ル所ヲ知ラズ、王曰ハク、汝何
 ノ故ニ狼狽スルヤ、曰ハク、奴ガ懷中ニ大金有リ、
 姦者奴ヲ誣エルニ盜ヲ以セントス、嗚呼何ヲ以
 之ヲ明サンヤト、王笑ヒテ曰ハク、憂フルト勿レ、
 朕屢睡中ニ上帝ノ恩惠ヲ受ケシトアリ、嘗聞ク、
 汝母ニ孝ナリト、汝モ亦上帝ノ賜ヲ受ケシナリ、
 汝其ノ金ヲ母ニ遺リ、且朕ノ言ヲ傳ヘヨ、他日朕
 必汝母子ヲ撫恤スベシト

第十四

信濃國伊奈郡入野谷村ノ獵人、冬日獵シテ、大猿

ヲ砲殺セリ、夜家ニ歸リ、明日皮ヲ剝ガンニ、冷エ凍リテハ、便ナラズト、之ヲ爐上ニ懸ケ置キタリシガ、深更ニ至リテ、小猿多ク來リ、手ヲ爐ニ炙ブリテ、大猿ノ腋ヲ抱持シ、相交代レテ其ノ疵ヲ暖メタリ、子ノ親ヲ思フヲ、獸ト雖此クノ如シ、人ニシテ孝心ナカルベケンヤ

鼠ハ損害ヲ爲シテ、人ニ憎マル、者ナレドモ、茲ニ孝心アリシ一話アリ、近頃ニウヨルクノ商船リスボンニ航セシ時、船中ニ鼠蕃殖シケレバ、硫黄ヲ薰シテ、之ヲ殺シ盡サントセシニ、一鼠アリ、

一鼠ヲ負ヒテ、踉蹌トシテ甲板上ニ出デタリ、衆人怪ミテ、之ヲ熟視スルニ、負ハレタルモノハ、老鼠ニノ、兩眼既失明セリ、負フモノハ子鼠ナルベク、今危難ニ際シ、其ノ親ヲ無害ノ地ニ避ケシメントスルヲ疑ヒナシト、衆人感嘆シテ、之ヲ殺サバリシトゾ、

修身說約卷ノ四終

明治十年九月廿日版權免許

同十二年十一月校訂

同十四年三月廿四日再版御届

同十四年九月五日再讓受御届

同十五年三月十五日三版御届

定價金銀八厘

編纂人

群馬縣御用掛

木戸

麟

出版人

東京府士族

原

亮三郎



製本所
發賣人

愛知縣下名古屋王屋町四丁目

鬼頭平兵衛

東京泉橋區本町三丁目十五番地